

A-Q7-1. Follow 中でない場合、稀少部位子宮内膜症について産婦人科との連携、紹介をしていますか。

1. 産婦人科に紹介をした。⇒ Q7-2 へ
2. 他院の消化器外科に紹介した。産婦人科との連携はしていない。⇒ 終了
3. 終診とした。産婦人科との連携はしていない。⇒ 終了

Q7-2. 連携先に関する質問です。連携先の産婦人科は、貴院でしょうか、他院でしょうか。

1. 連携先は当院内である。
2. 連携先は他院である。

回答日	年 月 日	病院名	
診療科	1.消化器外科 2.産婦人科		回答者名
連絡先	email: @	FAX:	TEL:
症例番号	A-	各施設で1から順に番号を付けてください。	

## 腸管子宮内膜症第2次調査表

Q1. 腸管子宮内膜症の部位	1. 直腸 2. S状結腸 3. 回盲部 4. 小腸 5. 虫垂			
	6. 部位不明 7. その他( )			
Q2. 診断した診療科	1. 内科 2. 外科 3. 産婦人科 4. その他の科( )			
Q3. 診断時	年齢	歳	出産歴	回
	結婚	1. 未婚 2. 既婚	身長	cm 体重 kg
	既往歴			
	家族歴			
Q4. 月経歴	初経	歳	月経周期	日周期 閉経 歳, 未
	月経困難症	1. 有 2. 無 3. 不明		
Q5. 症状 症状についての質問です。	血便、下血	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明	
	下痢	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明	
	粘液便	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明	
	排便障害	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明	
	イレウス	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明	
	腹痛	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明	
	排便痛	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明	
	月経困難症	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明	
	慢性骨盤痛	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明	
	性交痛	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明	
その他				
Q6. 診断 ... これまでの検査の結果について教えてください。	直腸診	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明		
	経腹超音波断層法	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明		
	経腔超音波断層法	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明		
	CT	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明		
	MRI	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明		
	注腸造影検査	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明		
	大腸内視鏡検査	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明		
	生検後病理	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明		
	手術時所見	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明		
	術後病理検査	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明		
その他				

Q7-1. 腸管以外の骨盤子宮内膜症の有無	1. あり 2. なし 3. 不明	
Q7-2腸管以外の骨盤子宮内膜症の合併	1. 卵巣子宮内膜症 2. 腹膜子宮内膜症 3. 子宮腺筋症	
	4. 膀胱子宮内膜症 5. その他( )	
Q8 治療	これまで行った治療につきまして教えてください。	
Q8-1 手術療法	1. あり	1を選んだ場合にはQ8-2に進んでください
	2. なし	2を選んだ場合はQ8-3に進んでください。
Q8-2 手術前にホルモン療法を行ったことがある	1. あり 2. なし	「1.あり」→ Q9(ホルモン療法)とQ10(手術療法)へ
		「2.なし」→ Q10 (手術症例)へ
Q8-3 手術をしていない症例	1. ホルモン療法 2. 経過観察	
	3. その他の治療 ( )	
「1. ホルモン療法」→ Q9へ 「2. 経過観察」→ 連携についての質問(6ページ以降)へ		
「3. その他の治療」 → Q8-4 「その他の治療」の効果について		
Q8-4 「その他の治療」の効果について	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	

Q8をまとめますと以下ようになります。

なお、データの解析上、Q8には、答えていただきますようお願い申し上げます。

# 手術未施行例でホルモン療法を行っている症例 → Q9のホルモン療法に進んでください。

# 手術施行例の場合

術前にホルモン療法を行っている。→ 「Q9ホルモン療法」と「Q10手術療法」にお答えください。

術前にホルモン療法を行っていない。→ 「Q10手術療法」に進んでください。

### Q9 ホルモン療法について

これまで、手術前に行ったホルモン療法、もしくは手術を行っていない症例のホルモン療法について教えてください。

Q9-1 ホルモン療法(初回)		
Q9-1-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. デイナゲスト® 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )	
Q9-1-2 薬剤投与期間	ヵ月	
Q9-1-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	

Q9-2 ホルモン療法(変更)		
Q9-2-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. デイナゲスト® 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )	
Q9-2-2 薬剤投与期間	ヵ月	
Q9-2-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	

Q9-3 ホルモン療法(再変更)		
Q9-3-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. デイナゲスト® 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )	
Q9-3-2 薬剤投与期間	ヵ月	
Q9-3-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	

Q9-4 ホルモン療法(再変更)		
Q9-4-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. デイナゲスト® 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )	
Q9-4-2 薬剤投与期間	ヵ月	
Q9-4-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	

Q10 手術療法			
<p>これまでに手術を行った症例に対するアンケートです。次ページには術後ホルモン療法についての質問もごさいます。</p>			
Q10-1		1. 開腹手術 2. 腹腔鏡補助下手術 3. 腹腔鏡下手術 4. その他	
Q10-2術式 ... 術式について 教えてください ください	1. 子宮内膜症病巣切除術 2. 前方切除 3. Miles手術 4. 直腸部分切除術 5. S状結腸切除術 6. 回盲部切除術 7. 小腸部分切除 8. 虫垂切除術 9. その他( )		
Q10-3 手術時年齢	歳		
Q10-4 術中に子宮内膜症病変の同定	1. あり 2. なし	術中に肉眼的に子宮内膜症を疑われる病変を同定できましたでしょうか。	
Q10-5 病理検査	1. あり 2. なし	「1. あり」を選んだ場合には、Q10-6-1に教えてください。	
Q10-6-1 病理検査にて	1. 内膜症組織が確認された		
	2. 内膜症組織は確認されなかった。 3. その他 ( )		
Q10-6-2 病変の深さ (腸管内膜症は漿膜側から 粘膜側に浸潤していくと報 告されています。)	1. 漿膜面のみ 2. 筋層への浸潤有 3. 粘膜面に到達 4. 不明 5. その他 ( )		
Q10-7 術後合併症	1. 腸管穿孔 2. 吻合不全 3. 直腸腔瘻 4. その他 ( )		
Q10-8 術後合併症に対する再手術の有無	1. 有 2. 無		
Q10-9 症状の改善の有無	1. 有 2. 無		
Q9-10 術後follow期間	ヶ月		
Q10-11 術後療法 (再発前に再発予防 目的に始めた治療)	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト® 5. ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマトラーゼ阻害剤 8. その他( )		
Q10-12 術後再発の有無	1. あり 2. なし	Q10-13術後再発時	術後 ヶ月
Q10-14 再発後の治療	1. 経過観察 2. 手術(術式: ) 3. ホルモン療法 3.を選択→ 次ページの Q10-15へ 4. その他 ( )		

Q10-15 術後再発後ホルのモン療法について		
Q10-15 術後再発後のホルモン療法(初回)		
Q10-15-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト® 5.ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマトーゼ阻害剤 8.その他( )	
Q10-15-2 薬剤投与期間	カ月	
Q10-15-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	
Q10-16 術後再発後ホルモン療法(変更)		
Q10-16-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト® 5.ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマトーゼ阻害剤 8.その他( )	
Q10-16-2 薬剤投与期間	カ月	
Q10-16-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	
Q10-17 術後再発後ホルモン療法(再変更)		
Q10-17-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト® 5.ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマトーゼ阻害剤 8.その他( )	
Q10-17-2 薬剤投与期間	カ月	
Q10-17-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	
Q10-18 術後再発後ホルモン療法(再変更)		
Q10-18-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト® 5.ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマトーゼ阻害剤 8.その他( )	
Q10-18-2 薬剤投与期間	カ月	
Q10-18-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	

## 連携について(産婦人科用)

A-Q1. この症例は貴科初診でしょうか、紹介受診でしょうか。

1. 当科初診である
2. 当病院の他科より紹介受診となった。
3. 他病院の産婦人科より紹介受診となった。
4. 他病院の他科より紹介受診となった。

A-Q2. 紹介受診の場合、どこの診療科から紹介を受けましたか？

1. 産婦人科
2. 外科
3. 内科
4. その他( )

A-Q3. 今回の稀少部位子宮内膜症については、既に前医で診断されていたでしょうか？

1. 当科で稀少部位子宮内膜症の診断となった。
2. 紹介受診の時点で稀少部位子宮内膜症と診断もしくは疑われていた。

A-Q4. 前医で稀少部位子宮内膜症と診断された場合に、どのように診断されましたか。

1. 前医で手術を施行しており、子宮内膜症の診断となった。
2. 前医で生検を行っており、子宮内膜症の診断となった。
3. 前医で内視鏡、MRI、CTなどの画像検査で子宮内膜症の診断となった。
4. 前医で症状や薬物療法などの効果から、子宮内膜症の可能性が高いとされた。
5. その他( )
6. 不明

A-Q5. 貴科で現在も follow 中ですか。

1. follow 中である。⇒ Q6-1 へ
2. follow 中ではない。⇒ Q7 へ

A-Q6-1. 貴科で follow 中の場合に、消化器内科、消化器外科との連携がありますか。

1. 消化器内科や消化器外科と連携をしている。⇒ Q6-2 へ
2. 今後、消化器内科や消化器外科と連携していく予定である。⇒ Q6-2 へ
3. 連携はしていない。産婦人科だけで follow 中である。⇒ 終了

A-Q6-2. 連携先に関する質問です。連携している消化器内科、消化器外科は、貴院でしょうか、その他の病院でしょうか。

1. 連携している消化器内科、消化器外科は当院内である。⇒ 終了
2. 連携している消化器内科、消化器外科は他院である。⇒ 終了

A-Q7. Follow 中でない場合、稀少部位子宮内膜症について消化器外科との連携、紹介をしていますか。

1. 他院の産婦人科に紹介をした。消化器外科にも紹介をした。
2. 他院の産婦人科に紹介した。消化器外科との連携はしていない。
3. 産婦人科は終診とし、消化器外科を紹介した。
4. 終診とした。消化器外科との連携はしていない。



回答日	年 月 日	病院名	
診療科	1. 泌尿器科 2. 産婦人科		
回答者名			
連絡先	email: @	FAX:	TEL:
症例番号	B-	各施設で1から順に番号を付けてください。	

## 膀胱、尿管子宮内膜症第2次調査表

Q1. 膀胱、尿管子宮内膜症□		1. 膀胱 2. 尿管 3. その他 ( )			
Q2. 診断した診療科		1. 内科 2. 外科 3. 泌尿器科 4. 産婦人科 5. その他の科( )			
Q3. 診断時	年齢	歳	出産歴	回	
	結婚	1. 未婚 2. 既婚	身長	cm	体重 kg
	既往歴				
	家族歴				
Q4. 月経歴	初経	歳	月経周期	日周期	閉経 歳, 未
	月経困難症	1. 有 2. 無 3. 不明			
Q5. 症状 ... 症状について 教えてください。	排尿時痛	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明		
	血尿	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明		
	頻尿	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明		
	尿意切迫感	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明		
	排尿障害	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明		
	水尿管症	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明		
	水腎症	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明		
	無機能腎	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明		
Q6. 診断 ... 行った検査について 教えてください。	経腹超音波断層法	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明			
	経膈超音波断層法	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明			
	DIP	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明			
	CT	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明			
	MRI	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明			
	膀胱鏡	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明			
	生検	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明			
	術中所見	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明			
	術後病理検査	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明			
その他					

Q7. 病変部位	1. 膀胱三角部 2. 膀胱前壁 3. 膀胱側壁 4. 膀胱頂部 5. 膀胱頸部 6. 上部尿管 7. 中部尿管 8. 下部尿管 9. その他( ) 10. 不明	
Q8-1. 膀胱、尿管以外の骨盤 子宮内膜症の有無	1. あり 2. なし 3. 不明	1. あり→ Q8-2へ 2, 3選択→Q9治療へ
Q8-2膀胱、尿管以外の骨盤 子宮内膜症の合併	1. 卵巣子宮内膜症 2. 腹膜子宮内膜症 3. 子宮腺筋症	
	4. 腸管子宮内膜症 5. その他( )	
	6. 不明	

Q9 治療について	これまで行われた治療について教えてください。	
Q9-1 手術療法	1. あり 2. なし	「1.あり」→ Q9-2
		「2.なし」→Q9-3(手術を行っていない症例)へ
Q9-2 手術前にホルモン 療法を行ったことがある	1. あり 2. なし	「1.あり」→ Q10(ホルモン療法)とQ11(手術療法)へ
		「2.なし」→ Q11 (手術症例)へ
Q9-3 治療法について (手術未施行の症例)	1. ホルモン療法のみ	
	2. 経過観察	
	3. その他の治療 ( )	
「1. ホルモン療法のみ」→ Q10へ		
「2. 経過観察」→ 連携について(6ページ以降)の質問へ		
「3. その他の治療」→ Q9-4「その他の治療の効果について」		

Q9-4「その他の治療」 の効果について	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	

Q9をまとめますと以下ようになります。

なお、データの解析上、Q9には、答えていただきますようお願い申し上げます。

# 手術未施行例でホルモン療法を行っている症例 → Q10のホルモン療法に進んでください。

# 手術施行例の場合

術前にホルモン療法を行っている。→ 「Q10ホルモン療法」と「Q11手術療法」にお答えください。

術前にホルモン療法を行っていない。→ 「Q11手術療法」に進んでください。

Q10 ホルモン療法について	
これまで、手術前に行ったホルモン療法、もしくは手術を行っていない症例のホルモン療法について教えてください。	

Q10-1 ホルモン療法(初回)	
Q10-1-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト 5.ダナゾール
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )
Q10-1-2 薬剤投与期間	カ月
Q10-1-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。

Q10-2 ホルモン療法(変更)	
Q10-2-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト 5.ダナゾール
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )
Q10-2-2 薬剤投与期間	カ月
Q10-2-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。

Q10-3 ホルモン療法(再変更)	
Q10-3-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト 5.ダナゾール
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )
Q10-3-2 薬剤投与期間	カ月
Q10-3-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。

Q10-4 ホルモン療法(再変更)	
Q10-4-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト 5.ダナゾール
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )
Q10-4-2 薬剤投与期間	カ月
Q10-4-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。

Q11 手術療法			
<p>これまでに手術を行った症例に対するアンケートです。次ページには術後ホルモン療法についての質問もございます。</p>			
Q11-1 手術	1.開腹手術 2.腹腔鏡下手術 3.膀胱鏡下手術 4.その他( )		
Q11-2 術式	1. TUR 2. 膀胱部分切除 3. 尿管剥離術 4. 尿管端々吻合術 5. 膀胱尿管新吻合(Psoas hitch法) 6. 膀胱尿管新吻合(Boari flap法) 7. 尿管ステント挿入(重複選択可能) 8. その他 ( )		
Q11-3 手術時年齢	歳		
Q11-4 術中に子宮内膜症病変の同定 (術中に肉眼的に子宮内膜症を疑われる病変を同定できましたでしょうか。)	1. あり 2. なし 3. 不明		
Q11-5 病理検査	1. あり 2. なし	1を選んだ場合にはQ11-6に教えてください	
Q11-6 病理検査にて	1. 内膜症組織が確認された。 2. 内膜症組織は確認されなかった。 3. その他 ( )		
Q11-7 術後合併症	1. 縫合不全 2. 膀胱腔瘻 3. 尿管腔瘻 4. 排尿障害 5. 水腎症 6. 水尿管 7. その他 ( )		
Q11-8 術後合併症に対する再手術の有無	1. 有 2. 無		
Q11-9 術後の症状改善の有無	1. 有 2. 無		
Q11-10 術後follow期間	ヶ月		
Q11-11 術後療法 (再発前に再発予防目的に始めた治療)	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. デイナゲスト 5.ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマトラーゼ阻害剤 8.その他( )		
Q11-12 術後再発の有無	1. あり 2.なし	Q11-13術後再発時	術後 ヶ月
Q11-14 再発後の治療	1. 経過観察 2. 手術(術式: ) 3. ホルモン療法 3を選択→ 次ページの Q11-15へ 4. その他 ( )		

術後再発後ホルモン療法について		
Q11-15 術後再発後 ホルモン療法(初回)		
Q11-15-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ジェノゲスト 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )	
Q11-15-2 薬剤投与期間	カ月	
Q11-15-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	
Q11-16 術後再発後ホルモン療法(変更)		
Q11-16-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ジェノゲスト 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )	
Q11-16-2 薬剤投与期間	カ月	
Q11-16-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	
Q11-17 術後再発後ホルモン療法(再変更)		
Q11-17-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ジェノゲスト 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )	
Q11-17-2 薬剤投与期間	カ月	
Q11-17-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	
Q11-18 術後再発後ホルモン療法(再変更)		
Q11-18-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ジェノゲスト 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )	
Q11-18-2 薬剤投与期間	カ月	
Q11-18-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	

## 連携について(泌尿器科用)

A-Q1. この症例は貴科初診でしょうか、紹介受診でしょうか。

1. 当科初診である
2. 当病院の他科より紹介受診となった。
3. 他病院の泌尿器科より紹介受診となった。
4. 他病院の他の診療科より紹介受診となった。

A-Q2. 紹介受診の場合、どこの診療科から紹介を受けましたか？

1. 産婦人科
2. 泌尿器科
3. その他 ( )

A-Q3. 今回の稀少部位子宮内膜症については、既に前医で診断されていたでしょうか？

1. 当科で稀少部位子宮内膜症の診断となった。
2. 紹介受診の時点で稀少部位子宮内膜症と診断もしくは疑われていた。

A-Q4. 前医で稀少部位子宮内膜症と診断された場合に、どのように診断されましたか。

1. 前医で手術を施行しており、子宮内膜症の診断となった。
2. 前医で生検を行っており、子宮内膜症の診断となった。
3. 前医で内視鏡、MRI、CTなどの画像検査で子宮内膜症の診断となった。
4. 前医で症状や薬物療法などの効果から、子宮内膜症の可能性が高いとされた。
5. その他 ( )
6. 不明

A-Q5. 貴科で現在も follow 中ですか。

1. follow 中である。⇒ Q6-1 へ
2. follow 中ではない。⇒ Q7-1 へ

A-Q6-1. 貴科で follow 中の場合に、産婦人科との連携がありますか。

1. 産婦人科と連携をしている。⇒ Q6-2 へ
2. 今後、産婦人科と連携していく予定である。⇒ Q6-2 へ
3. 連携はしていない。当科だけで follow 中である。⇒ 終了

A-Q6-2. 連携先に関する質問です。連携している産婦人科は、貴院でしょうか、その他の病院でしょうか。

1. 連携している産婦人科は当院内である。⇒ 終了
2. 連携している産婦人科は他院である。⇒ 終了

A-Q7-1. Follow 中でない場合、稀少部位子宮内膜症について産婦人科との連携、紹介をしていますか。

1. 産婦人科に紹介をした。⇒ Q7-2 へ
2. 他院の同じ診療科に紹介した。産婦人科との連携はしていない。⇒ 終了
3. 終診とした。産婦人科との連携はしていない。⇒ 終了

A-Q7-2. 連携先に関する質問です。連携先の産婦人科は、貴院でしょうか、他院でしょうか。

1. 連携先は当院内である。
2. 連携先は他院である。

回答日	年 月 日	病院名	
診療科	1. 泌尿器科 2. 産婦人科		
回答者名			
連絡先	email: @	FAX:	TEL:
症例番号	B-	各施設で1から順に番号を付けてください。	

## 膀胱、尿管子宮内膜症第2次調査表

Q1. 膀胱、尿管子宮内膜症□		1. 膀胱 2. 尿管 3. その他 ( )						
Q2. 診断した診療科		1. 内科 2. 外科 3. 泌尿器科 4. 産婦人科 5. その他の科( )						
Q3. 診断時		年齢	歳	出産歴	回			
		結婚	1. 未婚 2. 既婚	身長		cm	体重	kg
		既往歴						
		家族歴						
Q4. 月経歴		初経	歳	月経周期	日周期	閉経	歳, 未	
		月経困難症	1. 有 2. 無 3. 不明					
Q5. 症状 ... 症状について 教えてください。		排尿時痛	1. 有 2. 無 3. 不明	1. ある 2. ない 3. 不明				
		血尿	1. ある 2. ない 3. 不明					
		頻尿	1. ある 2. ない 3. 不明					
		尿意切迫感	1. ある 2. ない 3. 不明					
		排尿障害	1. ある 2. ない 3. 不明					
		水尿管症	1. ある 2. ない 3. 不明					
		水腎症	1. ある 2. ない 3. 不明					
		無機能腎 腎不全	1. ある 2. ない 3. 不明					
Q6. 診断 ... 行った検査について 教えてください。		経腹超音波断層法	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明					
		経膈超音波断層法	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明					
		DIP	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明					
		CT	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明					
		MRI	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明					
		膀胱鏡	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明					
		生検	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明					
		術中所見	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明					
		術後病理検査	1. 所見あり 2. 所見なし 3. 未施行 4. 不明					
その他								



Q7. 病変部位	1. 膀胱三角部 2. 膀胱前壁 3. 膀胱側壁 4. 膀胱頂部 5. 膀胱頸部 6. 上部尿管 7. 中部尿管 8. 下部尿管 9. その他( ) 10. 不明
----------	---

Q8-1. 膀胱、尿管以外の骨盤 子宮内膜症の有無	1. あり 2. なし 3. 不明	1. あり→ Q8-2へ 2, 3選択→Q9治療へ
Q8-2膀胱、尿管以外の骨盤 子宮内膜症の合併	1. 卵巣子宮内膜症 2. 腹膜子宮内膜症 3. 子宮腺筋症	
	4. 腸管子宮内膜症 5. その他( )	
	6. 不明	

Q9 治療について	これまで行われた治療について教えてください。
-----------	------------------------

Q9-1 手術療法	1. あり 2. なし	「1.あり」→ Q9-2	
		「2.なし」→Q9-3(手術を行っていない症例)へ	
Q9-2 手術前にホルモン 療法を行ったことがある	1. あり 2. なし	「1.あり」→ Q10(ホルモン療法)とQ11(手術療法)へ	
		「2.なし」→ Q11 (手術症例)へ	

Q9-3 治療法について (手術未施行の症例)	1. ホルモン療法のみ		
	2. 経過観察		
	3. その他の治療 ( )		
「1. ホルモン療法のみ」→ Q10へ			
「2. 経過観察」→ 連携について(6ページ以降)の質問へ			
「3. その他の治療」→ Q9-4「その他の治療の効果について」			

Q9-4「その他の治療」 の効果について	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。		
	3. 有効であったが副作用のために中止した。		
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。		

Q9をまとめますと以下ようになります。

なお、データの解析上、Q9には、答えていただきますようお願い申し上げます。

# 手術未施行例でホルモン療法を行っている症例 → Q10のホルモン療法に進んでください。

# 手術施行例の場合

術前にホルモン療法を行っている。→ 「Q10ホルモン療法」と「Q11手術療法」にお答えください。

術前にホルモン療法を行っていない。→ 「Q11手術療法」に進んでください。

Q10 ホルモン療法について	
これまで、手術前に行ったホルモン療法、もしくは手術を行っていない症例のホルモン療法について教えてください。	

Q10-1 ホルモン療法(初回)	
Q10-1-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト 5.ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )
Q10-1-2 薬剤投与期間	ヵ月
Q10-1-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。

Q10-2 ホルモン療法(変更)	
Q10-2-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト 5.ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )
Q10-2-2 薬剤投与期間	ヵ月
Q10-2-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。

Q10-3 ホルモン療法(再変更)	
Q10-3-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト 5.ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )
Q10-3-2 薬剤投与期間	ヵ月
Q10-3-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。

Q10-4 ホルモン療法(再変更)	
Q10-4-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト 5.ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマターゼ阻害剤 8.その他( )
Q10-4-2 薬剤投与期間	ヵ月
Q10-4-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。
	3. 有効であったが副作用のために中止した。
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。

Q11 手術療法			
<p>これまでに手術を行った症例に対するアンケートです。次ページには術後ホルモン療法についての質問もございます。</p>			
Q11-1 手術	1.開腹手術 2.腹腔鏡下手術 3.膀胱鏡下手術 4.その他( )		
Q11-2 術式	1. TUR 2. 膀胱部分切除 3. 尿管剥離術 4. 尿管端々吻合術 5. 膀胱尿管新吻合(Psoas hitch法) 6. 膀胱尿管新吻合(Boari flap法) 7. 尿管ステント挿入(重複選択可能) 8. その他 ( )		
Q11-3 手術時年齢	歳		
Q11-4 術中に子宮内膜症病変の同定 (術中に肉眼的に子宮内膜症を疑われる病変を同定できましたでしょうか。)		1. あり 2. なし 3. 不明	
Q11-5 病理検査	1. あり 2. なし	1を選んだ場合にはQ11-6に教えてください	
Q11-6 病理検査にて	1. 内膜症組織が確認された。 2. 内膜症組織は確認されなかった。 3. その他 ( )		
Q11-7 術後合併症	1. 縫合不全 2. 膀胱腔瘻 3. 尿管腔瘻 4. 排尿障害 5. 水腎症 6. 水尿管 7. その他 ( )		
Q11-8 術後合併症に対する再手術の有無		1. 有 2. 無	
Q11-9 術後の症状改善の有無		1. 有 2. 無	
Q11-10 術後follow期間	ヶ月		
Q11-11 術後療法 (再発前に再発予防目的に始めた治療)	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ディナゲスト 5.ダナゾール 6. GnRHアゴニスト 7. アロマトーゼ阻害剤 8.その他( )		
Q11-12 術後再発の有無	1. あり 2.なし	Q11-13術後再発時	術後 ヶ月
Q11-14 再発後の治療	1. 経過観察 2. 手術(術式: )		
	3. ホルモン療法	3.を選択→ 次ページの Q11-15へ	
	4. その他 ( )		

術後再発後ホルモン療法について		
Q11-15 術後再発後 ホルモン療法(初回)		
Q11-15-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ジェノゲスト 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマトラーゼ阻害剤 8.その他( )	
Q11-15-2 薬剤投与期間	カ月	
Q11-15-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	
Q11-16 術後再発後ホルモン療法(変更)		
Q11-16-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ジェノゲスト 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマトラーゼ阻害剤 8.その他( )	
Q11-16-2 薬剤投与期間	カ月	
Q11-16-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	
Q11-17 術後再発後ホルモン療法(再変更)		
Q11-17-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ジェノゲスト 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマトラーゼ阻害剤 8.その他( )	
Q11-17-2 薬剤投与期間	カ月	
Q11-17-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	
Q11-18 術後再発後ホルモン療法(再変更)		
Q11-18-1 投与薬剤	1. 無 2. 低用量ピル 3. 中用量ピル 4. ジェノゲスト 5.ダナゾール	
	6. GnRHアゴニスト 7. アロマトラーゼ阻害剤 8.その他( )	
Q11-18-2 薬剤投与期間	カ月	
Q11-18-3 治療は効果的であったか	1. 効果的であった。 2. 再発などがあり無効であった。	
	3. 有効であったが副作用のために中止した。	
	4. 効果は不明もしくは有効であったが副作用のために中止した。	